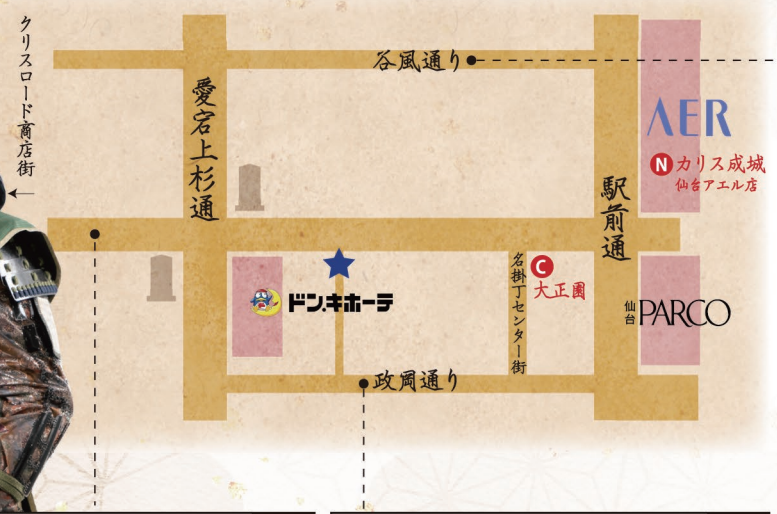
ハピナ名掛丁商店街

「儂が今年担当するのはここ、ハピナ名掛丁商店街である。
以前から気になっておったのじゃが、この『ハピナ』とはいったい何のことであろうか。ちょっと調べてみるとしよう」

「なになに、『幸福な』を意味する『happy』を日本語で形容動詞化した『ハッピーな』に由来する造語であるとな。
いい言葉ではないか。早くこの状況が好転し、にぎやかな商店街が戻ってくるとよいのう」
「さて、ここでの謎も異国の文字が手掛かりになっておるようじゃ。儂もこの文字を少しは理解できるようになってきたゆえ、軽く解いて見せようぞ!」



四ツ谷用水

仙台は至る所に河岸段丘を確認できます。藩政時代、伊達政宗公は家臣の川村孫兵衛重吉に命じ、広瀬川上流に堰を築き、段丘崖に沿うように用水路を設けることで、上流の水が城下町を潤すようになりました。城下町に位置していた今のクリスロード商店街とハピナ名掛丁商店街の境には、その証として模様の違うタイルが埋められており、当時の痕跡を確認することができます。

政岡通り

仙台藩のお家騒動を題材にした歌舞伎の中で、我が子を犠牲にして幼い藩主に忠義を尽くした乳母「政岡」から取って、政岡通りと呼ばれています。

名掛丁センター街

名掛丁商店街入口から一番近い横丁です。古くから店を構える京屋ビルと正礼堂ビルの狭間にある「名掛丁センター街」は、新旧様々な業種の飲食店が軒を連ね、代表的な仙台名物が味わえるお店もあります。

名掛丁藤村広場

「名掛丁」は明治20年の鉄道が開通するまでは、名掛丁から東の車町まで続く細長い町でした。東側には明治29年に東北学院の英語教師として仙台に赴任した若き日の島崎藤村が執筆した「若菜集」を書き上げたといわれていた下宿「三浦屋」がありました。その跡地は現在「名掛丁藤村広場」と呼ばれ、島崎の直筆による若菜集「草枕」の詩碑を詠むことができます。

ガス燈

仙台市地下鉄南北線の開業を記念して、昭和62年に仙台駅西口から名掛丁商店街にかけての大通りに110基のガス燈が設置されました。4基に1つは伊達政宗公の騎馬像のオブジェが飾られています。時代の流れと共に多くの灯りはガスからLEDへと交換され、街を照らしてくれています。

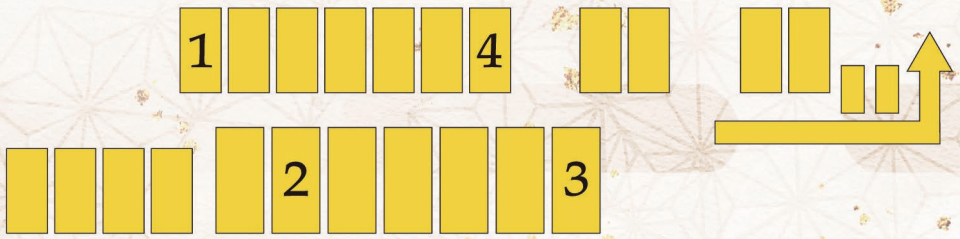
谷風通り

江戸中期に陸奥国宮城郡霞目村（今の仙台市若林区霞目）で生まれ、「力量・人格の面において、後の横綱の模範とされた力士」といわれた横綱谷風梶之助。その谷風にあやかり名付けれました。勾当台公園には「谷風像」が建ち、故郷の霞目には「谷風の墓」が今も残されています。

御名懸組

名掛丁商店街付近は江戸時代、仙台城大手門に通じる街道であり、城下の東側の重要防衛拠点としてこの地に「御名懸組」を住まわせていました。御名懸組の組士屋敷が置かれた侍町は「名懸丁」と呼ばれ、その後「名掛丁」となり、現在まで約400年もの間、その名を受け継いでいます。

商店街から政岡通りに抜けられる茶色の建物に入り、最初にある陳列窓を見よ。
黄色い異国の文字を見て、番号順に読んで出てくる飲み物を答えよ。



こたえ [ ][5][ ]